

# 地域活性化と地域コミュニティの維持・再生 ～関係人口論を中心に～

2021年1月27日（水）14:00～16:00  
@Webex

兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科  
准教授 太田尚孝  
nota@shse.u-hyogo.ac.jp

## 目次

1. 自己紹介
2. 関係人口論再考
3. 中播磨地域の関係人口とは？

• いただいた、この方向性に関連付けて、15分～20分程度で私から話題提供をしたいと思います。

### 今日の議論の方向性のメモ…

- 関係人口の創出
  - 関係人口をどのように増やしていくか？（交流人口をどうやって関係人口にしていくか？）
- 地域コミュニティへの受け入れ
  - 関係人口や移住者等などをどうやって地域コミュニティの一員として受け入れるか？（地域コミュニティに参加してもらうことが重要）

# 1. 自己紹介

略歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>1978年10月：愛知県生まれ</li> <li>2003年03月：愛知県立大学外国語学部ドイツ学科 卒業</li> <li>2006年03月：岐阜大学大学院地域科学研究科 修了</li> <li>2010年07月：筑波大学大学院システム情報工学研究科 修了 博士（工学） 取得</li> <li>2010年08月：筑波大学 博士特別研究員</li> <li>2010年09月：（財）計量計画研究所都市・地域計画研究室 研究員</li> <li>2012年11月：筑波大学システム情報系社会工学域 助教</li> <li>2015年04月：福山市立大学都市経営学部・大学院都市経営学研究科 准教授</li> <li>2017年04月：兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 准教授</li> </ul>
専門	<ul style="list-style-type: none"> <li>日独の都市計画・まちづくり</li> </ul>
受賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010年度日本都市計画学会論文奨励賞</li> <li>2012年度日本都市計画学会年間優秀論文賞</li> </ul>
留学	<ul style="list-style-type: none"> <li>2004年04月～2005年03月：独エアフルト大学国家学部社会科学科</li> <li>2008年04月～2009年03月：独ベルリン工科大学第6学部都市・地域計画学科</li> </ul>
語学	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年02月：ドイツ語技能検定試験1級合格</li> </ul>
HP	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="https://sites.google.com/view/otanaotaka2020/">https://sites.google.com/view/otanaotaka2020/</a></li> </ul>

## 1. 自己紹介（今日の話の前提）

### 家島×関係人口…

- 2018年度：離島における関係人口のあり方を家島を事例にリサーチ
- 2019年度：家島の関係人口創出PJを研究室、いえしまコンシェルジュ、姫路市地域おこし協力隊とのコラボ企画として実施「いえしまカフェPJ」

**コミュニティ・デザイン的手法による離島の活性化PJ**

環境人間学部 都市計画研究室3年生・学生団体DEN・建築系学生有志 太田尚孝 家島：いえしまコンシェルジュ・地域おこし協力隊 いえしまの皆さん

**いえしまカフェPJ**

- 概要：環境人間学部の学際的資源を家島の課題解決とマッチングさせ、具体的アクションの実施
- 実践：学生が地域の方と一緒にランチレシピを開発し、2日間限定で計60名の予約制カフェ（姫路町家しよあん）をオープン
- 特徴：ランチ提供だけではなく、これを機会に家島を訪れてもらうことを重視したプログラム構成を展開
- 成果：カフェは大盛況、学生と他地域とのコラボのプロトタイプに（くらすベディアにも記事掲載！）

『神戸新聞』2019年12月1日付



家島の食材使ったランチ

**いえしま空き家利活用PJ**

- 概要：急増する空き家の中で立地条件や再生可能性が高い物件を抽出し、島外の方が短期的・中長期的に滞在可能なシェアハウスを提案
- 実践：学生が対象物件の清掃、所有者へのヒアリング、類似事例の調査、間取り提案を実施
- 課題：地域にとって価値のある提案の再検討が必要（実現は2020年度に持ち越し）



学生の提案例：「仲間と一緒に暮らそう！家シェア」

- 共有スペースの壁をなくし交流スペースを拡大
- テラスを設け、庭と海が見渡せる開放的な空間に
- 今の間取りを活かした個人スペース





- 大江万梨・濱田悠輔・神原秀政・米田達海・太田尚孝（2019）「関係人口の増加に向けた提案と関係人口が果たす役割に関する考察－家島諸島を事例に」『兵庫地理』, 64, 105-113  
 > [http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000003kernel\\_90006046](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kernel_90006046)

## 宍粟×関係人口・・・

- 2019年度：自治体アンテナショップの現状調査としてきてーな宍粟のサーチ
- 2020年度：**宍粟市の関係人口創出PJ**を研究室、宍粟市役所、宍粟市地域おこし協力隊、きてーな宍粟とのコラボ企画として実施「しそうはちみつコラボPJ」



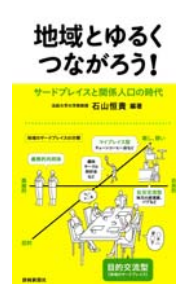
- 西島優・福島瀬里・阿部舞・永瀬紗織・太田尚孝（2020）「地方都市における自治体アンテナショップの現状と改善案の提案：「ふるさと宍粟PR館きてーな宍粟」を事例として」『兵庫地理』, 65, 75-85  
 > [http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000003kernel\\_90007186](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kernel_90007186)

# 2. 関係人口論再考（そもそも論）

## 関係人口の定義・・・

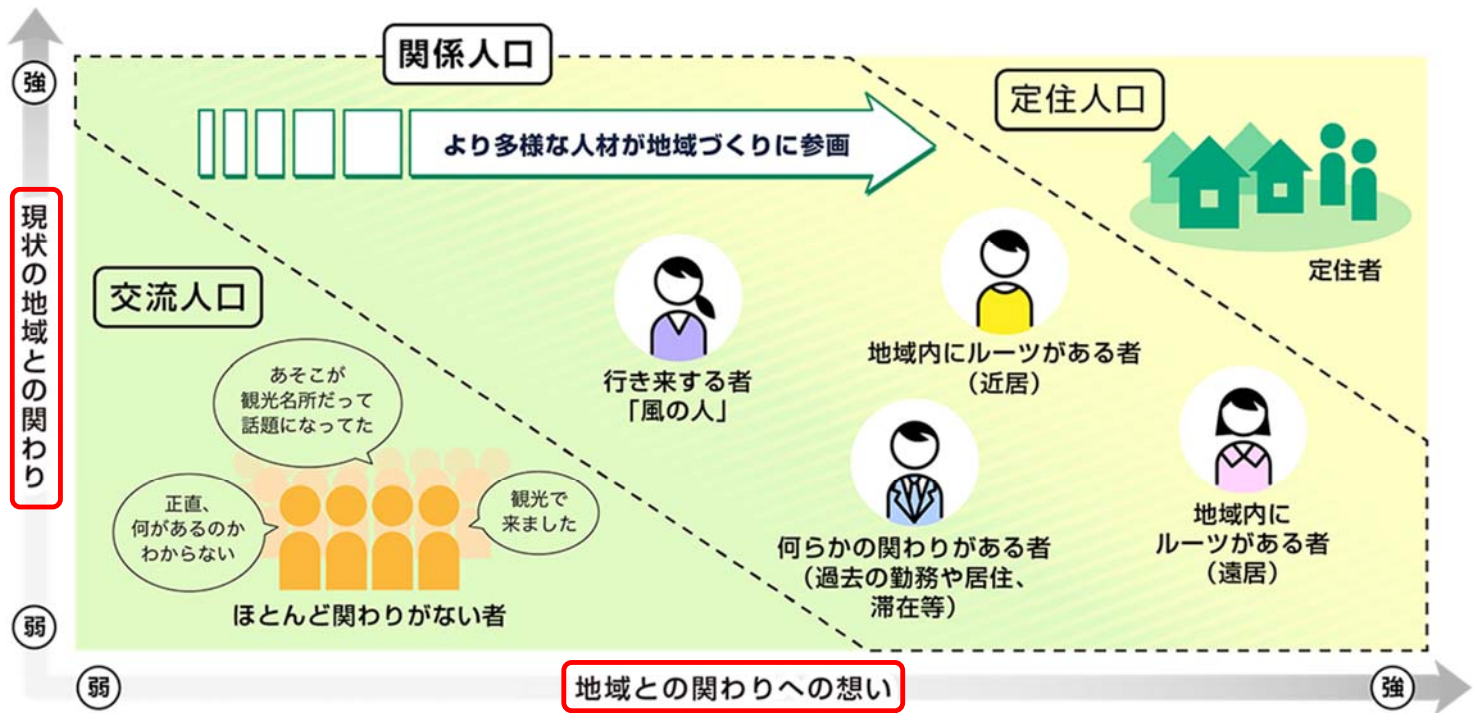
- 「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、**地域と多様に関わる人々を指す言葉**です。
- 地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「**関係人口**」と呼ばれる**地域外の人材が地域づくりの担い手となる**ことが期待されています。 <https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>

地域への新しい入り口  
**関係人口**  
 ポータルサイト





## 2. 関係人口論再考（概念図）



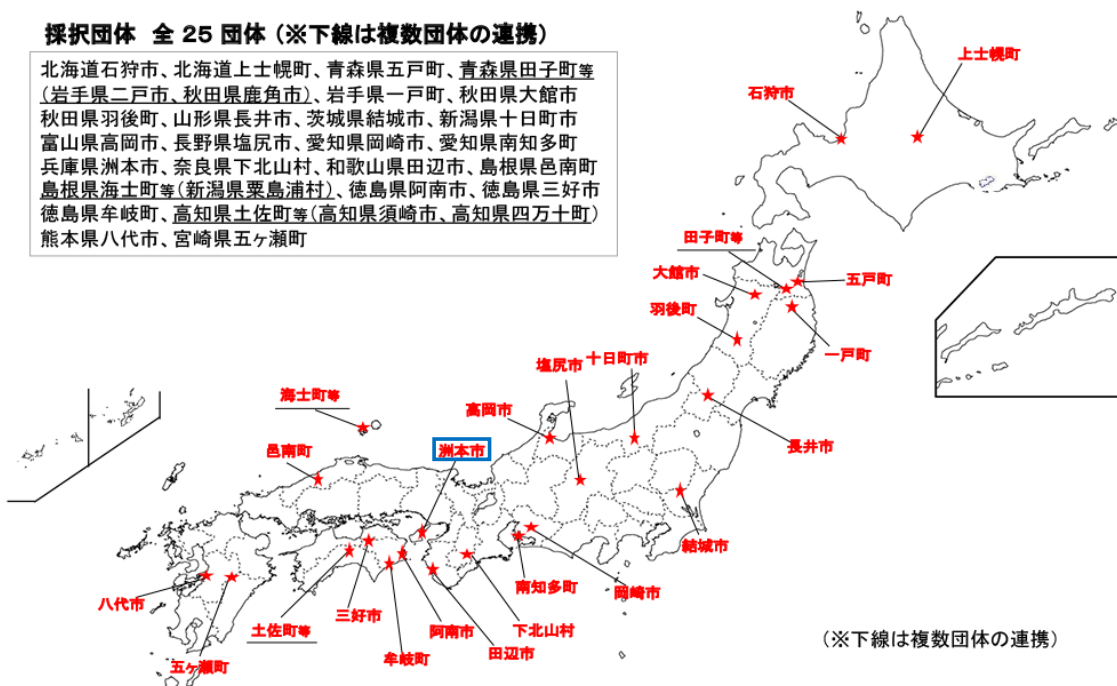
<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>

## 2. 関係人口論再考（国レベルの取り組み例）

### 令和2年度モデル事業採択団体（全25団体）・・・

採択団体 全 25 団体（※下線は複数団体の連携）

北海道石狩市、北海道士幌町、青森県五戸町、青森県田子町等（岩手県二戸市、秋田県鹿角市）、岩手県一戸町、秋田県大館市、秋田県羽後町、山形県長井市、茨城県結城市、新潟県十日町市、富山県高岡市、長野県塩尻市、愛知県岡崎市、愛知県南知多町、兵庫県洲本市、奈良県下北山村、和歌山県田辺市、島根県邑南町、島根県海士町等（新潟県粟島浦村）、徳島県阿南市、徳島県三好市、徳島県牟岐町、高知県土佐町等（高知県須崎市、高知県四万十町）、熊本県八代市、宮崎県五ヶ瀬町



（※下線は複数団体の連携）

### 洲本市の試み

- 地元出身の社会人（大学卒業生）と地域との双方向の情報交流のためのホームページの制作、卒業生等の実践活動や活動拠点整備について検討するワークショップの開催、卒業生メーリングリストの作成を行う。
- 都市部の大学との連携や、関係人口の受け入れやサポートの経験が豊富な協議会などと連携し、継続的な活動を行う。

<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/discription/index.html>

## 2. 関係人口論再考（国レベルの取り組み例）

### 卒業生との関係再構築による “即戦力人口”創出事業

洲本市  
洲本市域学連携推進協議会  
龍谷大学 ほか

関係人口ポータルサイト

パンカランカ

洲本のおもしろい数珠つなぎ

大学卒業生就職先  
の関係者  
その他関係人口  
地元の住民や団体

「これからの地域に必要なものは、おもしろいを貫く偏愛と、同じ志をもつ仲間だー」

【学ばんか】

おもしろい学校 | 淡路島洲本市

**SUMORROW!**  
スモロー!

全4回のオンラインワークショップ

PJ創出

- 【作らんか】  
卒業生等滞在拠点整備PJ
- 【遊ばんか】  
“外遊び”観光化PJ
- 【〇〇ばんか】  
〇〇PJ
- 【〇〇らんか】  
〇〇PJ
- ...

【続けらんか】

卒業生対象アンケート調査  
(→メーリス作成)

洲本市で地域づくり活動を経験した  
大学卒業生  
域学連携活動に参画する現役大学生

様々なおもしろいプロジェクトが数珠つなぎのように生まれ、それをホームページで発信することで、関係人口との関わりや交流を連続性のあるものにする

[https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/model\\_detail/r02\\_04\\_sumotoshi.html](https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/model_detail/r02_04_sumotoshi.html)

## 2. 関係人口論再考（県レベルの取り組み例）

### 関係人口創出・拡大スクール...

関係人口創出・拡大スクール 開校!

2020年7月~2021年1月(全5回)

コーディネーターの養成講座

第1期 7/19  
第2期 9/13  
第3期 11/14  
第4期 1/23

主催：洲本市と民間交流センター(伊藤中道、伊藤謙司)

協賛：農、漁、林業の発展の推進  
洲本市と民間交流センター(伊藤中道、伊藤謙司)

講師：コーディネーターにたいして、おもしろい活動を知りたい人、関係人口創出・拡大スクールを運営したい人、関係人口創出・拡大スクールの運営

関係人口創出・拡大スクール 開校プログラム(全5回)

第1期 7/19  
全体集合  
「関係人口創出・拡大スクールの意義」  
「コーディネーターとは」

第2期 9/13  
全体集合  
「地域からみたアドバイザーとは?」  
「地域の課題を知ろう」

第3期 11/14  
全体集合  
「地域からみたアドバイザーとは?」  
「地域の課題を知ろう」

第4期 1/23  
全体集合  
「地域の発展の事業」  
「アドバイザーとは?」

第5期 2021年1/23  
全体集合  
「地域からみたアドバイザーとは?」  
「地域の課題を知ろう」

お申し込み・お問い合わせ  
関係人口創出・拡大スクール事務局  
Tel: 078-360-9972  
Mail: kankouinfo@natureinfo.jp

- 小規模集落への支援に向け外部人材（関係人口等）の活動を推進するため、街中（都市）における各種団体・個人の調整や集落における課題解決にかかる取組に対する活動調整を行う **コーディネーターを育成**します。
- 併せて、関係人口創出・拡大を目指す集落の各種団体等の **リーダー人材**に対し、**実践につながる知識習得**も図ります。
- スクールでは、1.地域への入り方、2.地域の現状や課題を的確に捉えた地域カルテの作成のすすめ、3.地域からみたアドバイザーとは、4.地域の攻めの事業について学ぶとともに、**地域活動・課題解決のための意見交換の場**を提供し、**コーディネーターや活動団体のリーダー**を育成します。

<https://www.yume-hyogo.com/natureinfo/natureinfo10195/>



## 2. 関係人口論再考（中播磨地域レベルの取り組み例）

11

### アーバン・イノベーション・ジャパン・・・



#### 要点 Point

##### ▲ 解決したい課題

リモートワークや多拠点居住など新しい生活様式が言われるなか、姫路市出身者や姫路市に興味のある人とつながりがなく移住の候補に入っていないのではないか

##### ▲ 想定する実証実験

姫路市に興味のある首都圏の潜在層との新しいコミュニケーション手法・関係づくりの検証

##### ♥ 実現したい未来

姫路市に興味のある人たちに、必要な情報が届き、継続的に姫路市と関わる仕組みを作ること、将来への移住を検討してもらうこと

##### ■ 得られるもの

関係人口づくりの新たな手法の確立、移住・定住施策で苦労している全国の自治体への展開

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、東京圏・大阪府への転出超過数が増加傾向にあり（H26：560人→H30：758人）、中小企業を中心に人手不足は深刻なもので、姫路をはじめ播磨地域全体の経済の低迷が懸念される。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>姫路市出身者や姫路に興味のある人など、潜在的に姫路に移住してくる可能性がある人に情報を届けていない。コミュニケーション手段が確立できていない</li> </ul>
求める解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>姫路市出身者や姫路に興味のある人と新しいコミュニケーションの方法を確立すること</li> </ul>
付加的・発展的な要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>播磨地域全体の魅力発信、企業や地域を巻き込んだコンテンツづくりなど</li> </ul>
想定する実証実験内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなコミュニケーション手法やツールについての実証</li> </ul>
求めるスタートアップ像	<ul style="list-style-type: none"> <li>単なるHPやSNSの活用ではなく、独自の切り口で移住・定住施策や関係人口づくりなどの取り組みを行っているスタートアップ</li> </ul>
スタートアップに求める条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働期間中に姫路市に一度は足を運んでいただきたい姫路市の発信するコンテンツを含めアドバイスをいただけるとなおよい</li> </ul>
提供可能なデータ・環境等	<ul style="list-style-type: none"> <li>姫路市の施策及び統計データ 姫路市アプリ、Facebook、LINEといった情報発信チャネルの統計データ</li> </ul>
プログラム終了後の本格導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度中に本格導入したい</li> </ul>

## 2. 関係人口論再考（中播磨地域レベルの取り組み例）

12

### 現場での活動・・・



中西 和也/ナカニシ カズヤ

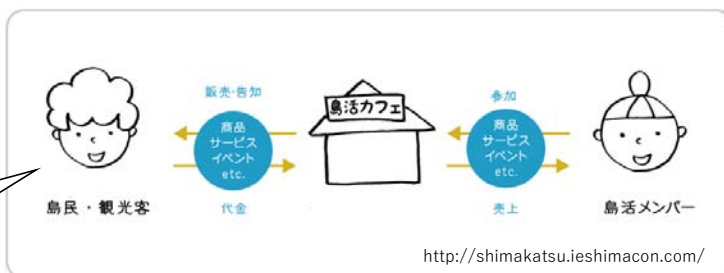
- 1985年生まれ（大阪市出身）
- 熊本の大学を卒業後、2級建築士の免許を取得
- 土木施工管理会社や都市計画系のシンクタンクに所属
- その間に、フリーター・ニート生活も経験（！）

活動内容

- 島外からのお客さんを案内する観光ガイド
- 島内で唯一のカフェ「海がみえるカフェ スコット」の運営
- 島の海産物を使った特産品の企画や販売
- 島の空き家を活用した移住促進

「週末島活」（関係人口+aの可能性？）

- 家島で観光以上、移住未満の週末を過ごしたい人へ



- 中西和也（2019）「家島諸島（兵庫県姫路市）家島観光事業組合 民間中心の観光で諸島全体を活性化：海運・採石・漁業に次ぐ第4の産業に」しま64(4), 28-33  
  - http://www.nijinet.or.jp/Portals/0/pdf/publishing/shima/257/shima\_257\_02.pdf
- 中西和也（2017）「家島群島（いえしまぐんとう）（兵庫県姫路市）島の魅力発掘をなりたいに」しま63(1), 38-43  
  - http://www.nijinet.or.jp/Portals/0/pdf/publishing/shima/250/shima\_250\_03.pdf

### 関係人口の理解…

- ① 今まで存在していたがなんとなくであった都市でも中山間でも地域との関り・思いを明示化し、政策展開した点はキャンペーン（例：観光以上・移住未満）としても**大変画期的**。
- ② 地域と関りを持ちたい場合に、実際には様々なグラデーションがあり、定住化が必ずしもゴールではないと含意していることは**人口減少時代にもマッチ**。
- ③ とはいえ、関係人口は、一見さんではなく、その地域に対して思いがある人であり、これを「ファン」と理解すると、**魅力づくり、マーケティングが必然**に。
- ④ また、仮に関係人口を何らかの方法で計測しなければならない場合は、これまでとは違った**判断基準（指標）**で**アプローチ**することが必要に。
- ⑤ 関係人口を増やすことはベースであるとしても目的ではなく、**目的は当該地域の課題解決や地域の存続可能性を高めていくこと**にあるはず。

## 2. 関係人口論再考（これまでの経験を踏まえて）

### 関係人口だから何だ…

- 地域と関わっている**当該本人にとっては自分が関係人口であろうとなかろうとどうでもよい**。
  - カテゴリーに過度に注力することは全く無意味で非生産的。
- 関係人口という言葉で曖昧にできる余地が増えたことが、関係者に安心を与えつつ、**本来やるべき・やらなければいけないこともぼやけさせてはいないか**。
  - 言葉や概念が変わっただけで、実態としてやることはほとんど変わらない？
- とはいえ、うまく**この流れをキャッチできる地域（自治体）とできないところでの差はさらに拡大傾向**に。
  - 成功・失敗をどのように判断するかは別にしても、**地域資源の再検討（再評価＋付加価値）と発信（ターゲット＋手法）**はあらためて必要に。

### 非現地訪問時代の関係人口…

- コロナウイルスにより、**現地訪問自体も困難に**（特に関係人口がホットなテーマとなっている過疎地域では心理的にも困難に）。
- そうなると、少なくとも現状ではクラウドファンディングやふるさと納税などの**購買や資金的支援（応援メッセージ）**などがより**重要に**？



- 一体、何が本当に当該地域にとって重要なのがよく見えない状況に。



## 3. 中播磨地域の関係人口とは？（議論の頭出し）

### 関係人口の創出…

- **実態理解**：Webでも何でもいいのだが、そもそも中播磨地域というレベルとして関係人口の創出や地域コミュニティへの受け入れとして何かやっているのか？
  - 空間スケールとして認識されているのか？ 必要性はどこに？ あるとすればどのような成果と課題？
- **潜在性・可能性**：中播磨地域の関係人口は現実的にはどのようなパターンがあり、どのようなことが彼ら・彼女らに期待されるのか（マンパワー？ 資金的援助？ 応援団？ PJ企画？）？
  - 出身地？ 大学？ 就職？ 姫路城？
- **実践方法**：仮に中播磨地域というレベルで関係人口の創出や地域コミュニティへの受け入れが今後、さらに必要になるとすれば、それは何のために、どのような方法で行うことが可能か？
  - 当然、自治体間・地域間での連携や情報共有は必須であり、人的交流や頑張っている人たち、施設に対して投資をすべきでは？

### 地域コミュニティへの受け入れ…

- **前提条件の理解**：そもそも、既存のマンパワーと仕組みでは地域が成り立たない危険性が高く、現況の正確な認識と、他者を受け入れる寛容性がなければ関係人口も移住者も何もないのでは？
  - 協働・共生の前提にはwin-winの関係の構築と信頼（透明性・説明責任）が必要では？
- **地域資源の再考**：例えば、『集落の教科書』のような形で地域資源の再考に基づく、受け入れ側の地域コミュニティ側の再整理もこの際、必要では？
  - 関係人口はまさに「風の人」？ 移住者もそのきっかけ？